「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 84

2022. 8. 15 発行

編集責任者：河地　清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 84 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

ﾃｰﾏ:　『地域活性化を考える』

地域の特色を生かした「商店街」の実践事例

―春日井市鳥居松地域を中心にして―

講師：河地　清（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

今回のテーマは、「地域活性化を考える」地域の特色を生かした「商店街」の実践事例－春日井市鳥居松地域を中心にして－で設定しました。

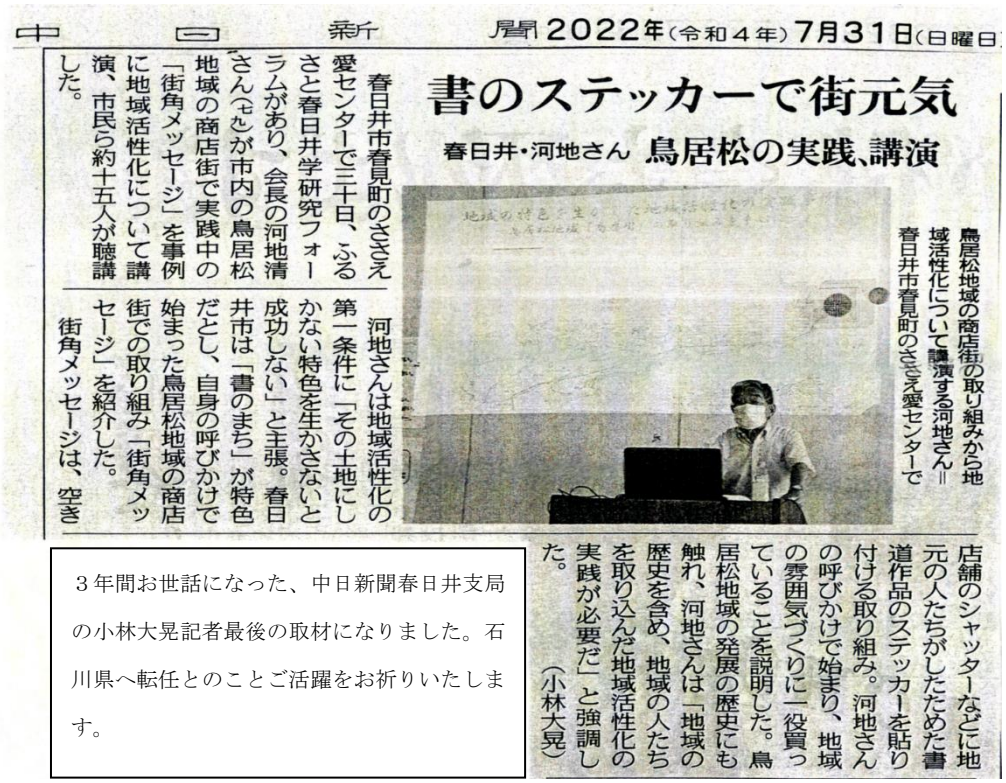
「地域活性化」の鍵を握るのは、「試行錯誤」と「創意工夫」そしてそれを推し進める人々の「情熱」と「熱意」地元に対する愛着、誇り（ふるさと意識）であるということがわかります。従来までの、経済優先中心の「地域活性化」策から、地域貢献、コミュニティー原理（人と人との繋がり）を中心にした発想への転換が必要な今日、注目すべき取り組みです。

「市民活動」は百花繚乱、千差万別です。「活性化」の種は、地道に「情熱」と「熱意」をもって進められる市民の意識が原動力です。鳥居松地域の「商店街」は、地域の特色を生かした新しい発想で挑戦的な「地域活性化」に取り組んでいます。現在進行形の取り組みですが、地域住民の文化的精神的所産としての「ふるさと意識」を基盤に取り組まれている点で、今後注目してゆきたい実践例です。講師は、本会会長河地清氏です。

当日はコロナ第 7 波のピークの状況にもかかわらず石黒直樹市長・林　克己市議会議長他 15 名の市民の皆様に聴講いただきました。

挨拶する、石黒直樹春日井市長

講師：河地　清　氏



中日新聞 2022年（令和4年）7月31日（日曜日）

書のステッカーで街元気

春日井・河地さん 鳥居松の実践、講演

鳥居松地域の商店街の取り組みから地域活性化について講演する河地さん＝春日井市春見町のさぎえ愛センターで

春日井市春見町のさぎえ愛センターで三十日、ふるさと春日井学研究フォーラムがあり、会長の河地清さん(七七)が市内の鳥居松地域の商店街で実践中の「街角メッセージ」を事例に地域活性化について講演、市民ら約十五人が聴講した。

河地さんは地域活性化の第一条件に「その土地にしかない特色を生かさないと成功しない」と主張。春日井市は「書のまち」が特色だとし、自身の呼びかけで始まった鳥居松地域の商店街での取り組み「街角メッセージ」を紹介した。

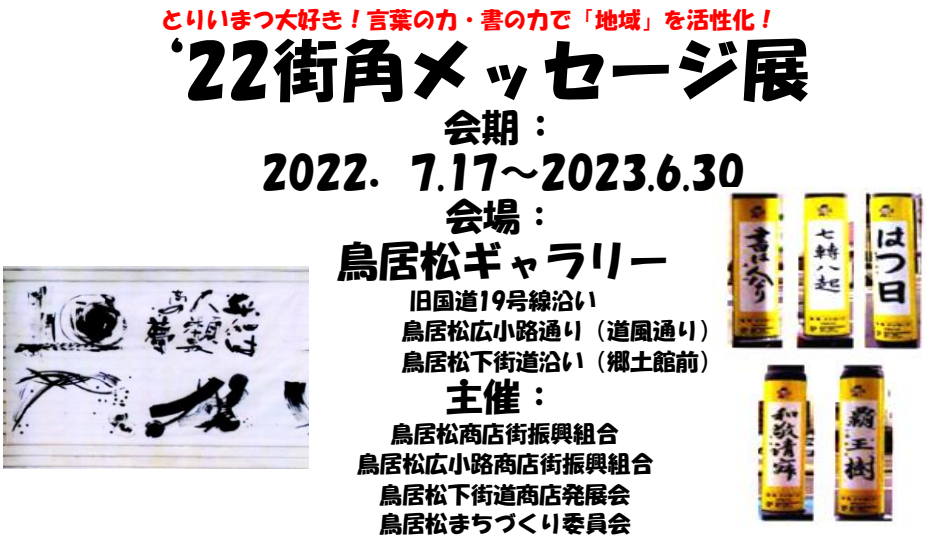
街角メッセージは、空き店舗のシャッターなどに地元の人たちがしたためた書道作品のステッカーを貼り付ける取り組み。河地さんの呼びかけで始まり、地域の雰囲気づくりに一役買っていることを説明した。鳥居松地域の発展の歴史にも触れ、河地さんは「地域の歴史を含め、地域の人たちを取り込んだ地域活性化の実践が必要だ」と強調した。

（小林大晃）

３年間お世話になった、中日新聞春日井支局の小林大晃記者最後の取材になりました。石川県へ転任とのことご活躍をお祈りいたします。

《発表要旨》

スライドで、鳥居松ギャラリーに貼付された「街角メッセージ」をダイジェスト版で映しだされました。



Ⅰ． 鳥居松地域の三商店街（鳥居松商店街振興組合、鳥居松広小路商店街振興組合、鳥居松下街道商店発展会）は、上記ポスターのような「街角メッセージ展」を企画し地域の活性化を進めています。この取り組みに至るまでには様々な試行錯誤の過程がありました。地域活性化および「まちづくり」の前提条件は、地域の特色や魅力となる「資源」を活用するこ

とが、今日では、定式化してきています。それは、地域の観光化であったり、地域の歴史・文化の保護・保全であったりすることです。鳥居松地域の商店街でも１０年ほど前から活性化の取り組みについては、「地域の魅力・特色」は何か、試行錯誤が続けられていました。

Ⅱ.試行錯誤と創意工夫の過程（今日、以下のような共通認識を構築することができました。）

① 商店街（鳥居松下街道発展会・広小路商店街振興組合・鳥居松商店街振興組合）、町内会（八事、町割、上の町）、鳥居松まちづくり委員会の構成による地域ぐるみの企画運営体制の構築。**（エリアマネージメントの考え）**

② 地域交流促進事業、商業振興活性化事業、まちなか観光推進事業、商店街ＩＣＴ社会対応事業、等の助成金制度の活用の為の、自主的、創造的事業の企画立案（「鳥居松歴史・文化の路 MAP」の作成、商店街ホームページ作成）**（補助金の主体的有効活用）**

③現存商店街の施設、設備の活用と地域住民の協働（春見公園、八幡小学校、商店街シャッター、街路灯、書の揮毫（市内５高校書道部、中部大学書道部、市長、議長、警察署長））の協賛。**（地域資源の有効活用）**

④「商店街の活性化」は、従来までの、物販・販促中心の「地域活性化」策から、コミュニティー原理（人と人との繋がり）を中心にした発想・地域貢献への視点に切り替わる。**（地域貢献の発想）**

⑤地域の「愛着・誇り・アイデンティティ」を共有できる取り組みとして地域の文化的特色（*「書のまち」*）に視点を置いた「地域活性化」へ**（街角メッセージ「言葉の力・書の力」ステッカー事業の発想）**

⑥鳥居松地域の「活性化」は、地域住民の文化的精神的所産としての**「ふるさと意識」（地元意識）**として取り組まれている市民活動である。

⑦中心市街地の活性化と商店街の活性化がイコールでは無い。その町に住む住民は「消費者」で在る前に「生活者」であり、生活の豊かさの中の１つが消費であり、それが必ずしも絶対的なものでは無い。経済活動が活発であることが、「街の活性化」とは言い切れない、住み易さと快適さは別にあることを認識する。教育・医療・介護・子育て・コミュニテーの充実が「地域の活性化」に繋がる。経済効果＝需要の創出。**（行政の施策如何・活性化のための提案をして行く）**

.Ⅲ. 鳥居松商店街の歴史

『創立 70 周年ー商いの種は百花繚乱ー』（春日井市商店街連合会　発行　2022.5）を参照して概観してみました。今日は、大きな転換期にあることがわかります。

・特色下街道時代（江戸期末～）→軍都時代（昭和 14～20 年）→現代（昭和・平成・令和）

昭和 18 年６月春日井市制施行

・商店街生成期（大正時代～）茶屋・商店・劇場（春木座）・旅籠（明治屋）商店街繁栄期（昭和 30 年代～）商店街近代化（アーケード、街路灯、舗装道路）四九の市、共同店舗、「横のデパート」（広小路通り））

1998 年（平成 10 年）　6/3 中心市街地活性化法　大規模小売店舗立地法　TMO

商店街再編期（平成 10～）・モータリゼイション・ロードショップ・大型店舗の進出・コンビニ・ネット通販・ドラックストアー等流通・販売形態の構造変化　※少子高齢化、後継者難、空き店舗化、宅地化、駐車場化　※物販中心の商店街機能の終焉　シャッター商店街化・地盤沈下

2014 年（平成 26 年）地方創生事業始まる　まちづくり三法　ふるさと納税

商店街転換期（平成 25 頃～）・*地域連携による活性化への模索*

※「商店街」の存在意義ー消費者から生活者の視点・地域包括的発想

※経済的活性化から地域資源活用による活性化（歴史・文化の保存）

※「商店街」は死なず！の気概と地元愛の意識が必要「ふるさと意識」

Ⅳ．実践の理論的根拠・考え方の基本。先行事例、研究（文献・論文）の紹介

今日の実践の根拠となった先行事例、研究（文献・論文）等を参考に致しました。地域の特色を生かした「活性化」こそが持続可能な地域の真の取り組みであることの指針となったものの一部を紹介しておきます。シャッター商店街再生の理論と実践に関する（資料―引用文献―）ものの一部です。

1）本間義人『まちづくりの思想―土木社会から市民社会へー』有斐閣選書 1994。
国主導のまちづくりから地方主体のまちづくりへ意識・発想を変えなければならない。

2）田村　明『まちづくりの実践』岩波新書 2013 年　・地域の価値とは何か。地域の価値＝資産・資源を生かしたまちづくりでなければならない。「まちづくり」を継続する力が必要。(P197)

3）月尾嘉男『縮小文明の展望－千年の彼方を目指してー』東京大学出版会 2003 年
縮小文明の到来は、日本古来から根付いた伝統的文化と思考発想が適合する社会の到来を予見させる。自然と共生する、文化と歴史をもつ日本は優位にある。

4）月尾嘉男『情報社会のまちづくり』「ふるさと春日井学」研究フォーラム講演（2014.4）　明治維新以来の画一主義、経済至上主義からの転換を迫られている。　「吾唯知足」（禅）の精神がなければ社会を変えて行くことは難しい。意識を変えなければならない。「富国有徳」の考え方が必要。日本は、文化的に条件がそろっている。

5）池上　惇『文化経済学すすめ』丸善ライブラリー　1993 年
J.ラスキンの経済学、価値観（文化、芸術）を享受できる社会の仕組みが重要である事を説く。

6）足立基浩『イギリスに学ぶ商店街再生計画－シャッター通りを変えるためのヒント－』ミネルヴァ書房 2013 年
徹底した SWOT 分析、個性を生かした都市再生論、観光化は、テーマパーク型よりも自然体の歴史・文化・伝統を中心にすべきである。今後の中心部の商業再生には、景観や地域の食材など個性を生かして地域内交流人口を増加させ、観光客を呼び込む手法が必要である。旧まちづくり三法は何ら貢献しなかった。伝統的景観は都市の個性を示す一つのバロメーターである。商業地の地価に関しては、景観形成団体のある街のほうが地価の下落率が低い。シャッター通り化をもたらした要因の一つは郊外型店舗の無秩序な開発にある。・都市の活性化は、「経済効果としての活性化」「文化や伝統を育む中での活性化」という二つのベクトルがある。

7）足立基浩『シャッター通り再生計画―明日からはじめる活性化の極意―』ミネルヴァ書房 2010 年
今までの「まちづくり」政策・考え方→経済効率優先、理論優先、便益主義、「リスク最小化の原則」に依拠。費用対効果、cost 最小化の考え方が中心。「コンサルに計画素案を作成を頼む」の法則、「何がやりたいのではなく、補助金を使いきらなければならないの法則、「その結果、『とりあえず、何かやっておく』」の法則、「金が出れば知恵が引っ込む、法に守られれば努力をしなくなる」の法則、等再生失敗の要因を分析。

⑧大塚俊幸（2007.10）「都市中心部における生活拠点の再生」（林　上編著『現代都市地域の構造再編』）
人口 30～40 万の中規模都市であっても、住むことを考え、歴史・文化を重視した都市づくりを一層推進し、心豊かに市民生活が送れる拠点として再編してゆくことである（P226）

⑨上野美咲『地方版エリアマネジメント』日本経済評論社　2018.7　まちづくりは、地域包括的な視点で発想してゆかなければならない。持続可能な事業継続は、様々な組織の利害調整＝エリアマネージメントの視点が重要であることを解説。

⑩新　雅史『商店街はなぜ滅びるのか－社会・経済・経済史から探る再生の道–』光文社新書　2012
商店街は滅びない、経済史の視点から、持続可能な商店街の再生を考える。

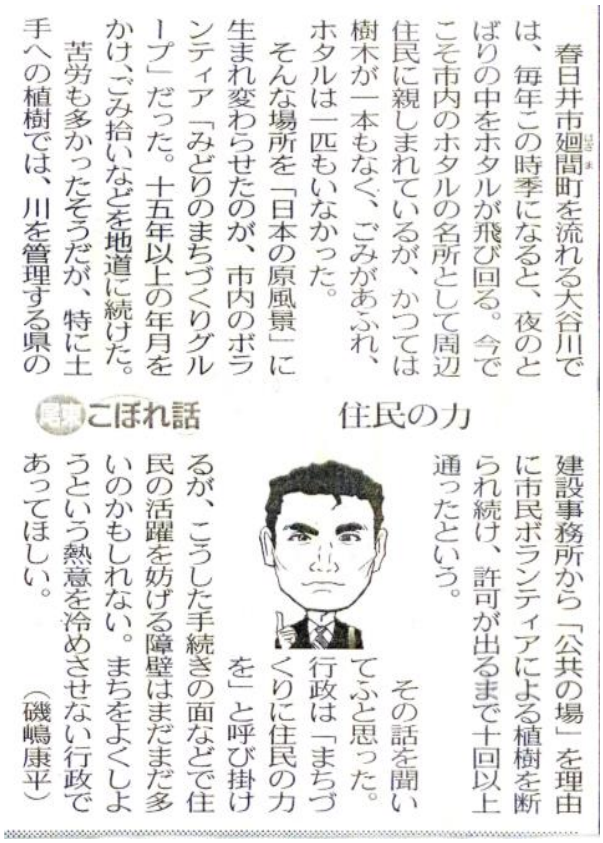
⑪春日井市『春日井市第六次総合計画 2018～2037 私たちの未來図』
第 4 部　総合計画の実現に向けて　第 1 章「地域資源を活用した活力の創出」3.地域資源を活用した活力の創出「地域の歴史や良好な景観など本市の特性や魅力といった地域資源を最大限に活かし、誰もが愛着と誇りを持って住み続けることができるまちづくりを進めます。」（P71）

⑫服部博昭編集・企画『春日井市商店連合会創立 70 周年記念誌−商いの種は百花繚乱ー』春日井市商店連合会　2022.5

⑬河地　清『「地域活性化」の本質的方法試論』（修文大学紀要 NO.8　2016.）
「ふるさと意識」の醸成による、「ふるさと意識」が基盤にある「地域活性化」が本質的活性化である。<u>商店街は、「死なず」の気概と地元愛がある限り再生は可能であると締めくくられた。</u>

（編集・記録：河地　清）

OPINION　－市民活動(「地域活性化」)の力を冷めさせない行政を！－



こぼれ話　住民の力

春日井市廻間町を流れる大谷川では、毎年この時季になると、夜のとばりの中をホタルが飛び回る。今でこそ市内のホタルの名所として周辺住民に親しまれているが、かつては樹木が一本もなく、ごみがあふれ、ホタルは一匹もいなかった。

そんな場所を「日本の原風景」に生まれ変わらせたのが、市内のボランティア「みどりのまちづくりグループ」だった。十五年以上の年月をかけ、ごみ拾いなどを地道に続けた。

苦労も多かったそうだが、特に土手への植樹では、川を管理する県の建設事務所から「公共の場」を理由に市民ボランティアによる植樹を断られ続け、許可が出るまで十回以上通ったという。

その話を聞いてふと思った。行政は「まちづくりに住民の力を」と呼び掛けるが、こうした手続きの面などで住民の活躍を妨げる障壁はまだまだ多いのかもしれない。まちをよくしようという熱意を冷めさせない行政であってほしい。

（磯嶋康平）

<u>中日新聞（７月７日付け）記事</u>は、本質を突いているので、紹介しておきます。「行政は「まちづくり」に「住民の力を」と呼びかけるがこうした手続きの面などで住民の活躍を妨げる障壁になっていないか。情熱と熱意で頑張っている住民の「やる気」を冷めさせない行政であってほしい。」とのコメント。若い記者でありながら、市民活動の意義や重要性をよく理解しているなと感心した。

「みどりのまちづくりグループ」の高橋代表には、本会 20 回フォーラム(2014.10.24)で発表していただいた。春日井の自然環境はこうした市民活動の方々で守られていることがよく理解できた。

地域の活性化は、こうした「住民の力」＝市民活動の集積で進んでいること、市民活動を頑張っている当事者の並々ならぬ「情熱」と「熱意」に支えられていることを理解することが重要である。（本フォーラム 78、79、80、81、82 回で発表）地域の「活性化」は、こうした一つ一つの市民活動によって創り出されていると言っていいと思う。市民活動支援センター（ささえ愛センター）は、その意味ですばらしい施設です。磯嶋記者の眼は、ハードウエアー、もさることながら、ソフトウェア、ヒュウマンウエアーの面での細かいサポートが必要であることを指摘している。行政の頑張りに期待したい。

（文責：河地　清）

かすがい市民活動情報サイト:http://kasugai.genki365.net/

ふるさと春日井学　検　索